

■ 本書の使い方

本書は、システムアーキテクト試験の**午後対策**を**重点的に効率良く学習**できるよう**書籍の構成**を工夫しています。また、初めて受験する方にも、再挑戦する方にも学習効率が上がるような構成になっています。

第1部 試験の概要と対策

試験の出題傾向と試験対策の知識、及びモチベーションのアップ！



第2部 午前Ⅱ（専門知識）試験の重点対策 ★演習問題 54 問掲載

午後試験につながる専門知識を重点分野に絞って解説！



第3部 午後Ⅰ試験の重点対策 ★29 のテクニック+演習問題 15 問掲載

出題される四つの企業活動パターンの理解+段階的に身に付ける**解法テクニック**！



第4部 午後Ⅱ試験の重点対策 ★三つのテクニック+演習問題 18 問掲載

論述テクニック+論文設計ワークシートによる演習+このままでは合格できない論文掲載！

※巻末付録

・「論文設計ワークシート」

※ダウンロード付録

【学習前用】 「配点付き午後Ⅰ 解答用紙」、 「論文原稿用紙」

【学習後用】 「合格虎の巻 午後Ⅰ・午後Ⅱ 試験突破のための 10 箇条」



⇒詳しいダウンロード方法については、P40 をご覧ください。



まえがき

本書の使い方・書籍の構成の工夫

第1部 試験の概要と対策

●●●●●●

■ 第1章	試験概要	10
■ 第2章	出題傾向	22
■ 第3章	試験対策	27
■ 第4章	合格のツボ	32

第2部 午前II（専門知識）試験の重点対策

●●●●●●

■ 第1章	学習方法	43
■ 第2章	システム開発技術	48
■ 第3章	オブジェクト指向分析	81
■ 第4章	構造化分析	127
■ 第5章	システム化計画	154
■ 第6章	要件定義	168
■ 第7章	調達計画・実施	178

第3部 午後Ⅰ試験の重点対策

●●●●●●

■ 第1章 学習方法と合格のツボ	191
■ 第2章 午後Ⅰ試験に出題される企業活動	196
■ 第3章 解法テクニック	207
■ 第4章 解法テクニック活用の演習	229
■ 第5章 解法テクニック応用の演習	317

第4部 午後Ⅱ試験の重点対策

●●●●●●

■ 第1章 学習方法と合格のツボ	407
■ 第2章 解法テクニック	416
■ 第3章 論文設計ワークシート活用の演習	474
■ 第4章 解法テクニック応用の演習	484
■ 第5章 合格できない論文	564

巻末資料

●●●●●●

■ 本書掲載問題一覧	652
■ 索引	656

商標表示

各社の登録商標及び商標、製品名に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分に尊重いたします。

第 2 部

午前Ⅱ（専門知識）試験の 重点対策

- 第1章 学習方法
- 第2章 システム開発技術
- 第3章 オブジェクト指向分析
- 第4章 構造化分析
- 第5章 システム化計画
- 第6章 要件定義
- 第7章 調達計画・実施

第2章

システム開発技術

2.1 システム開発プロセス

学習目標

- システム開発のプロセスを挙げて、それぞれを説明することができる。
- システム要件の振分けについて説明することができる。

(1) システム要件定義

① システム要件の定義

開発プロセスの前の要件定義プロセスの成果物である要件定義書にある、業務要件とシステム要件（機能要件、非機能要件）を基に、開発するシステムの具体的な利用方法を分析することで、システム要件を更に詳細に定義します。また、システム要件には次の項目などがあります。

- (a) システム化目標、対象範囲
- (b) システムの機能及び能力、ライフサイクル
- (c) 業務、組織及び利用者の要件
- (d) 信頼性、安全性、セキュリティ、人間工学、インタフェース、操作及び保守要件
- (e) システム構成条件
- (f) 開発環境
- (g) 品質、コストと期待される効果
- (h) システム移行要件

なお、システム適格性テストの方針やテスト要件をこの時期に決定します。

② システム要件のレビュー

適切なレビュー手法を採用して、システム要件定義書をレビューします。

バグの増幅作用のため、上流工程のバグは下流工程にいくに従って、大きな開発の手戻りとなります。システム要件定義のレビューでは、ドキュメントのバグをしっかりと摘出することが重要となります。

- ・ **BPMN** (Business Process Modeling Notation)

多くの表記法を参考にしながら、業務手順を分かりやすく図示して可視化するために表記ルールを定めたものです。イベント・アクティビティ・分岐・合流を示すオブジェクトと、フローを示す矢印などで構成された図によって業務プロセスを表現します。要件定義フェーズにおいて BPMN を導入すると、業務の流れを統一的な表記方法で表現できるという効果があります。

- ・ **階層図**

木構造に基づいた構造化ダイアグラムであり、トップダウンでの機能分割やプログラム構造図、組織図などの表現に用います。

③ **JIS X 0160** におけるシステム要求事項分析プロセス

JIS X 0160 では、システム要件定義を**システム要求事項分析プロセス**、システム要件を**システム要求事項**と呼び、“システム要求事項は、優先順序を付けられ、承認され、ベースラインが設定され、影響の及ぶ全ての当事者に伝達されることが望ましい。要求事項のベースラインを更新するときは、コスト、スケジュール及び技術的影響を評価することが望ましい”と記されています。



コラム

業務要件とシステム要件

Column

要件定義でまとめられた要件が、業務要件と考えてください。システム開発プロセスの始めで行うシステム要件定義では、業務要件からシステム要件に変換します。

例えば、「利用者は購買システムを8時から20時まで使う」という業務要件があった場合、システム要件としては、「購買システムのオンラインを7時から21時まで稼働させる」となります。IT サービスの観点から稼働開始と終了に余裕をもたせる必要があるからです。



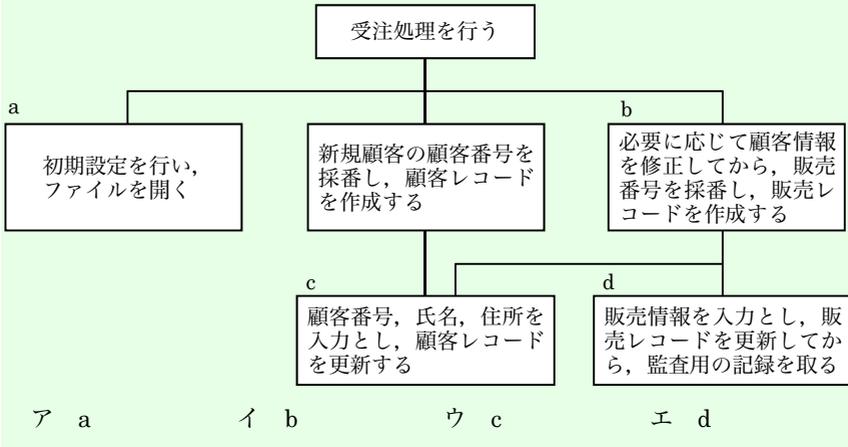
演習問題

問2



(H26秋-SA 午前II問5)

図は、商品の受注処理を行うプログラムのモジュール構成図である。a～dのうち、機能的強度のモジュールはどれか。



解説

モジュール強度に関する問題では、情動的強度の出題頻度が高いのですが、この問題では、モジュール強度では強度の最も強い機動的強度について問われています。情動的強度は、一つのモジュールに一つの機能です。“c”は、入力を基に顧客レコードを更新する機能しかもたないので、“c”のモジュールが情動的強度であることがわかります。その他は複数の機能をもつことがわかります。例えば、“d”は“販売レコードの更新”と“監査用の記録を取る”という二つの機能があることがわかります。したがって、正解は(ウ)です。

解答 ウ

第3部

午後Ⅰ試験の 重点対策

- 第1章 学習方法と合格のツボ
- 第2章 午後Ⅰ試験に出題される
企業活動
- 第3章 解法テクニック
- 第4章 解法テクニック活用の演習
- 第5章 解法テクニック応用の演習

第3章

解法テクニック

◆ポイント◆ 解法テクニックを知る。

解法テクニックを活用できるための三つのプロセスは、「解法テクニックを知る」、「解法テクニックを使える」、「解法テクニックを使って正解を導き出す」です。まずは、「解法テクニックを知る」から始めます。

3.1 解法テクニックー基本編

学習目標

- 基本編の解法テクニックを列挙し、説明できる。
- 因果関係で正解を導く際のテクニックを説明できる。
- 解答すべき問題を選択する際の評価ポイントについて説明できる。

(1) 午後 I 記述式問題の構成

まずは、記述式問題の構成をチェックしてみましょう。

午後 I 記述式問題は、次に示すように問題文と設問文から構成されています。本書では、問題の最初から、設問が現れるまでを問題文、設問全体を設問文という呼び方をします。

3
午後
I
試験

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

システム再構築に関する次の記述を読んで、設問 1～3 に答えよ。

(H20 秋・AE 午後 1 問 1 改)

大手物流会社の A 社では、10 年前に稼働を開始した基幹系システムの機器やソフトウェアの保守性が年々悪化していることから、現行システムを全面的に再構築することにした。

〔現行システム再構築の基本方針とプロセス〕

現行システムでは、汎用機を利用し、階層型のデータベース（以下、DB という）が構築されている。新システムでは、OS に UNIX を採用し、DB もリレーショナル型に変更することにした。新システムには、現行の機能に加え、新システムの稼働開始までに現行システムに追加される機能をそのまま実装する。これを現行機能開発という。

(省略)

設問 1 〔現行システム再構築の基本方針とプロセス〕について、(1)～(3)に答えよ。

- (1) 図 1 において、現行機能開発を Y 期間と Z 期間に分けて実施するメリットを、30 字以内で述べよ。
- (2) 追い付き開発は、現行システムのどの期間の仕様変更を反映するためのものか。図 1 中の字句を用いて答えよ。
- (3) 図 1 中の Z 期間で、現行システムの仕様を凍結している理由を、40 字以内で述べよ。

(省略)

(2) 基本テクニックの紹介

本書では、解法テクニックに「テクニック名」を命名することによって、本書内で引用しやすくしています。

まずは、基本テクニックを五つ紹介します。

〔基本テクニック 2〕 ブロック分割法

午後 I 記述式問題の解き方の基本は、因果関係で解答を導くということです。“因（原因）”は問題文や設問文に書いてある内容です。“果（結果）”は“因”から得られる結論です。解答は“因”と“果”であったり、“果”だけであったりします。どちらにしても、“因”を問題文から探す必要があります。

ブロック分割法は、次に説明するキーワード逆行法によって問題文から効率的に“因”を探すために問題を分割するための基本テクニックです。

ブロックについて、再度平成 20 年秋期 AE 午後 I 問 1 改で説明します。ここでは〔 〕に注目します。問題文の始まりには〔 〕がありません。本書では、問題文の始まりの部分を“共通ブロック”と呼びます。共通ブロックは、冒頭から、〔現行システム再構築の基本方針とプロセス〕が現れる直前までを指します。共通ブロックの次を、本書では“詳細ブロック”と呼びます。詳細ブロックの範囲は、〔現行システム再構築の基本方針とプロセス〕から、次の〔 〕が現れる直前までを指します。

システム再構築に関する次の記述を読んで、設問 1～3 に答えよ。

(H20 秋・AE 午後 I 問 1 改)

共通
ブロック

大手物流会社の A 社では、10 年前に稼働を開始した基幹系システムの機器やソフトウェアの保守性が年々悪化していることから、現行システムを全面的に再構築することにした。

詳細
ブロック

〔現行システム再構築の基本方針とプロセス〕 ←

現行システムでは、汎用機を利用し、階層型のデータベース（以下、DB という）が構築されている。新システムでは、OS に UNIX を採用し、DB もリレーショナル型に変更することにした。新システムには、現行の機能に加え、新システムの稼働開始までに現行システムに追加される機能をそのまま実装する。これを現行機能開発という。

（省略）

設問
キーワード

設問 1 〔現行システム再構築の基本方針とプロセス〕について、(1)～(3)に答えよ。

(1) 図 1 において、現行機能開発を Y 期間と Z 期間に分けて実施するメリットを、30 字以内で述べよ。

（省略）

第4章

解法テクニック活用の演習

実際の本試験を例にして、第3章で説明した解法テクニックの活用例を示します。次の問題を実際に解いてみてから、解説を読んでください。

4.1 午後 I 記述式問題の解法テクニックの活用例

学習目標

- 解法テクニックを活用して、解答効率を向上させて、規定時間内で少なくとも最後の設問まで目を通すことができる。
- 解法テクニックを活用して、高得点の解答を導くことができる。
- 設問文にある制約条件をすべて満足する解答を作成できる。

(1) 解法テクニックの活用とサンプル解答の採点例（その1）

最新の本試験問題を解いてみましょう。

試験センターが発表している正解例とは別にサンプル解答を挙げて、予想した配点で、正解例を基にサンプル解答の得点を計算してみます。みなさんが解答を自己採点する際の参考にしてください。

システムアーキテクト試験の午後 I 試験に慣れていない人は、問題文の読解内容とともに読み進めるとよいでしょう。

最初の演習問題は、問合せ管理システムの導入に関する問題です。問題文の読解では、次の3点について読み取ることが重要です。

- ・社内システムの環境では、個人所有のPCなど、許可されていない端末からはアクセスできない対策が取られていること。
- ・現在、新システムとは別に、D社グループ全体で基幹業務システムの再構築プロジェクトが進行しており、1年半後に新たな基幹業務システムの稼働を予定していること。
- ・安全性に関わる重大な問題の場合は、品質問題報告書を作成し、聞取り終了

した日の翌営業日までに、D社品質保証部門に報告していること。

次に、重要な設問文における解答条件を次に説明します。

- ① 設問1(2)の“新システムで何が利用できるようになるか”
“何が”と問うているので、この設問では名詞を答えるようにします。
- ② 設問1(3)の“どのような理由で”
“理由”について問うているので、解答の語尾が“～から”となるようにします。
- ③ 設問2の“どのようなタイミングか”
“タイミング”について問うているので、解答の語尾が“～タイミング”となるようにします。

以上の点を確認して、次の演習問題を解いてみましょう。

演習問題 1

採点例と解答解説

全体得点：50 点満点中 40 点

◆コメント◆

設問 1(2)において、設問文の“何が”に正確に答えていない点が残念です。設問文の問いを確認して、解答をブラッシュアップすることは基本的なテクニックです。解答を導けても得点できないことが、本番の試験ではないように、最後の解答チェックを怠らないようにしましょう。

[設問 1]

- (1) サンプル解答：無許可の端末から社内システムにインターネットからアクセスする (30/30 字)

正 解 例：許可されていない端末を用いた社内システムの利用 (23/30 字)

採点：○ 7 点 (予想配点 7 点)

◆コメント◆

正解例とは表現が違いますが、“社内システム”というキーワードを含んでいる点、設問で問われている“利用方式”について解答している点を満たしているので満点とします。

- (2) サンプル解答：新たに、利用者 ID とパスワードを覚えなくても済む (24/25 字)

正 解 例：自社運用システムの利用者 ID 及びパスワード (21/25 字)

採点：△ 3 点 (予想配点 7 点)

◆コメント◆

設問にある“何が利用できるようになるか”という問いに、解答が正確に答えていない点が残念です。

- (3) サンプル解答：基幹業務システムの再構築プロジェクトが進行中であり、連携の仕様が未確定だから (38/40 字)

正 解 例：新システムの構築と並行して基幹業務システムの再構築を進めているから (33/40 字)

採点：○ 7 点 (予想配点 7 点)

第4部

午後Ⅱ試験の 重点対策

- 第1章 学習方法と合格のツボ
- 第2章 解法テクニック
- 第3章 論文設計ワークシート
活用の演習
- 第4章 解法テクニック応用の演習
- 第5章 合格できない論文

午後Ⅱ試験合格のための学習スケジュール

学習時期	学習内容
3か月前	① 論文事例やシステムアーキテクトに関連する専門雑誌などを読み、システムアーキテクトの領域に慣れる。
	② 本書の例に従い論文設計ワークシートに論文を設計して、論文を書く。
2か月前	解きやすそうな過去問題を選び、論文設計ワークシートを作成して論文を書く。
1か月前	① 論文設計ワークシートを頭の中で展開し、問題を読んでワークシートを埋め、論文を書く。
	② 3時間以内で論文を書けるように訓練する。
2週間前	試験センターのHPにある過去問題を読み、頭の中の論文設計ワークシートをトピックで埋めて、論文の骨子を設計する訓練を繰り返す。
1週間前	もう一度、論文事例などを読んで、論述のためのネタを用意する。
試験前日の土曜日	合格のために、論文を一つ書く。
試験日当日の朝	「合格虎の巻」「午後Ⅱ試験突破のための10箇条」を読み返す。

各章の学習進捗表

第4部の章	学習予定日	チェック
第2章 解法テクニック		<input type="checkbox"/>
第3章 論文設計ワークシート活用の演習		<input type="checkbox"/>
第4章 解法テクニック応用の演習		<input type="checkbox"/>
第5章 合格できる論文・合格できない論文		<input type="checkbox"/>

第1章

学習方法と合格のツボ

午後Ⅱ試験突破に必要なことをいろいろな観点から考えてみましょう。

1.1 午後Ⅱ試験の突破者にみる合格者像

(1) 初めて受験したころの私がもった「合格者像」

私が初めて午後Ⅱ試験を受験したのは、昭和の終わりごろです。当時は、論文の本文とは別に400字の論述要旨を書くことになっており、難しい論文を書かないと合格できないというイメージをもっていました。

(2) 講師を始めたころの私がもった「合格者像」

当初は、設問文だけを読んで論文を自由に書いていましたが、それでも、ビギナーズラックによって合格していました。セミナー講師の仕事を始めようになり、設問文の前に書かれている出題の趣旨をしっかりと理解して、それに沿って書けばよいことが分かり、そのように受講生を指導していきました。

(3) 現在の私がもつ「合格者像」

試験センターのホームページで、論文がある試験区分の午後Ⅱ試験の評価配分をチェックしてみてください。午後Ⅰ試験突破者の半数が午後Ⅱ試験を突破しています。午後Ⅱ試験だけを見ると合格率は50%です。論述の勘所をつかんでしまえば、午後Ⅱ試験突破は難しいことではないということです。

1.2 合格者からのメールで分かる論述の勘所

(1) 論述の勘所

最初に、論述の勘所は一つではないことを申し上げておきます。山登りでは頂上は一つですが、そこにたどり着くルートはいろいろあります。これと同じように合格するための論述の勘所は、いろいろあります。以下は論文の規定字数が設問イとウで1,600字以上と指定されていたときの話です。

「設問ウをしっかりと書くことが合格の勘所です」という人もいます。合格者の声を公表しているホームページのうち、PM 試験の合格者が、「指示どおり設問ウを700字ほどしっかりと書いたおかげで合格することができました」と報告しています。設問ウをしっかりと書くことを合格の勘所にして、それを実践した人が合格したということです。

「設問イで合否は決定している」という人もいます。私がSA 試験対策をレクチャーしている最中に「設問ウでは、施策を評価して課題を明示して改善策を述べる、それほど多くの内容を書く必要があるのですか」という質問を受けました。彼は、SM 試験において設問ウを2行ほどしか書かなくても合格できたということです。

これらは、全部本当のことです。人それぞれ、合格の勘所は違うということです。そこで本書では、**論述の勘所のつかみ方**を解説したいと思います。

(2) 合格者がつかんだ論述の勘所

午後I 試験対策と同様に合格者からのメールを紹介して、合格者がどのような論述の勘所をつかんだのか、確認してみましょう。

【メールその1】

論文はWeb アプリケーションを選択しました。講座で練習したWeb システムのプロトタイピングを応用して2,800字程度、論述しました。試験終了後は手応えがなかったのですが、きちんと章立てできていたこと、題意に沿って説明できていたことが合格水準に達した理由ではないかと分析しています。とにかく時間内に論文を書き上げる練習をしました。特に次の点に注意しました。

- ・出題の趣旨に沿って素直に書く。
- ・「○○が重要であると考えた。なぜならば～」をポイント、ポイントで使う。
- ・第2章に時間をかけすぎず、第3章までバランス良く書く。

それでも実際の試験では、やはり時間不足となり危ないところでしたが、途中で第2章を切り上げて、何とか最後まで書き上げることができました。中身はたいしたことは書いていないのですがA判定でした。

【合格者が教えてくれた論述の勘所】

- ・設問の内容に従って、きちんと章立てすること
- ・出題の趣旨に沿って素直に書くこと
- ・「○○が重要であると考えた。なぜならば～」をポイント、ポイントで使うこと
- ・設問イに時間をかけすぎず、設問ウまでバランス良く書くこと

第5章

合格できない論文

◆ポイント◆ このままでは合格できないレベルの論文にある“見習うべき点を読み取る”。

5.1 合格への希望を感じさせる「合格できない論文」

学習者アンケートを分析すると、“合格できる完璧な論述例ではなく、改善すべき点がある論述例を知りたい”という要望がありました。そこで、「このままでは合格できない論文」を集めてみました。ですが、ただの不合格レベルの論文ではありません。

私は、ある企業の新入社員研修の一環として、毎年、SA 試験対策セミナーを実施しています。ここでは、論述と論文添削を交互に行います。そのセミナーの受講者が作成した論文のうち、システムアーキテクト試験に一発合格した受講者が、セミナーにおいて書いた「このままでは合格できない論文」を集めてみました。

まだ合格レベルには達していないものの、さすがに一発合格した能力をもった受講生が書いた論文です。“見習うべき点”が論文の中に多く含まれています。

オリジナルの問題文と添削論文をセットにして掲載しますので、2章の「五つのアピールまとめ」、4章の「五つの論旨展開の観点」で説明した論述テクニックを、どの程度使いこなせると合格できるのかなど“見習うべき点”を読み取ってください。

なお、各添削済論文と併せて実際の質問書と合格条件充足度評価表も掲載していますが、記載事項は、機密保護の観点から一部修正しています。

質問書

論述の対象とするシステムなどの概要（問1又は問2を選択した場合に記入）

質問項目	記入項目
計画又はシステムの名称	
① 名称 30字以内で、分かりやすく簡潔に表してください。	<p>製造業における任課自動化を指向した会計システム</p> <p>GOOD!</p> <p>【例】1.生産管理システムと販売管理システムとの連携計画 2.セキュリティシステムと連動した勤怠管理システム 3.商社におけるキャッシュレス化を指向した社内出納業務システム</p>
対象とする企業・機関	
② 企業・機関などの種類・業種	1.建設業 ②製造業 3.電気・ガス・熱供給・水道業 4.運輸・通信業 5.卸売・小売業・飲食店 6.金融・保険・不動産業 7.サービス業 8.情報サービス業 9.調査業・広告業 10.医療・福祉業 11.農業・林業・漁業・鉱業 12.教育（学校・研究機関） 13.官公庁・公益団体 14.特定しない 15.その他（ ）
③ 企業・機関などの規模	1.100人以下 2.101～300人 ③301～1,000人 4.1,001～5,000人 5.5,001人以上 6.特定しない 7.分からない
④ 対象業務の領域	1.経営・企画 ②会計・経理 3.営業・販売 4.生産 5.物流 6.人事 7.管理一般 8.研究・開発 9.技術・制御 10.特定しない 11.その他（ ）
システムの構成	
⑤ システムの形態と規模	①.クライアントサーバシステム ア.（サーバ約 1 台，クライアント約 10 台） イ.分からない 2.Webシステム ア.（サーバ約 台，クライアント約 台） イ.分からない 3.メインフレーム又はオフコン（約 台） 及び端末（約 台）によるシステム 4.その他（ ）
⑥ ネットワークの範囲	①.他企業・他機関との間 ②.同一企業・同一機関の複数事業所間 3.単一事業所内 4.単一部門内 5.なし 6.その他（ ）
⑦ システムの利用者数	1.1～10人 2.11～30人 ③.31～100人 4.101～300人 5.301～1,000人 6.1,001～3,000人 7.3,001人以上 8.特定しない 9.分からない
計画策定又はシステム開発の規模	
⑧ 総工数	①.（約 100 人月） 2.分からない
⑨ 総額	①.（ 100 ）百万円（ハードウェア費用を ア.含む イ.含まない） 2.分からない
⑩ 期間	①.（ 2013 年 10 月 ）～（ 2014 年 8 月 ） 2.分からない
計画策定又はシステム開発におけるあなたの立場	
⑪ あなたが所属する企業・機関など	①.ソフトウェア業・情報処理・提供サービス業など 2.コンピュータ製造・販売業など 3.一般企業などのシステム部門 4.一般企業などのその他の部門 5.その他（ ）
⑫ あなたの担当業務	1.情報システム戦略策定 2.企画 ③.要件定義 ④.システム設計 ⑤.ソフトウェア開発 ⑥.システムテスト ⑦.導入 8.運用・評価 9.保守 10.その他（ ）
⑬ あなたの役割	1.全体責任者 ②.チームリーダー 3.チームサブリーダー 4.担当者 5.企画・計画・開発などの技術支援者 6.その他（ ）
⑭ あなたが所属するチームの構成人数	（約 4 ～ 13 人）
⑮ あなたの担当期間	（ 2013 年 10 月 ）～（ 2014 年 8 月 ）

論文と添削コメント

本文（設問ア） 800字以内で記述してください。

第一章 業務統合に伴う情報システムのコード統一の概

要と、コード統一に関する問題

1. 1 情報システムのコード統一の概要

A社は、洋菓子を主に取り扱っている菓子メーカーである。地元の食材を使った菓子は、国内外の観光客を対象にして、売り上げを伸ばしている。取引量の増加に伴い、今後の供給量の増加を見込み、A社は、食材の調達先である農業生産法人と経営統合を行うこととなった。

100字

A社は農業生産法人との経営統合に当たって、情報システムの統合を行うこととなった。私はベンダーのシステムアーキテクトとして、業務統合に伴う情報システムのコード統一に携わった。対象の業務は経理の決算業務である。A社の財務諸表と統合する農業生産法人の財務諸表を連結するために、勘定科目を統一し、決算処理する

200字

必要があった。そこで、会計に関わる諸情報のコード統一を検討した。

300字

1. 2 コード統一に関する問題

新コード体系を整備するに当たり、経営層より、経理の月次決算業務を短縮したいという要望があった。A社は取引量の増加に伴い、月次決算業務の完了期日が翌月半ばにまで至っていた。月次決算業務の短縮を目的とした新会計システムの開発と、統一コード体系の作成には

500字

次のような問題があった。A社と農業生産法人の財務コードの体系が異なる。更に、両社内の調達、製造、生産、会計、人事の各管理システム間においても、コードが統一されていないことが明らかになった。

600字

以上の問題と目的を踏まえて、私はA社の経営統合に伴う情報システムのコード統一を進めるに当たり、次のように考えた。

700字

上手い！

論述の範囲が広がりすぎているのでは。絞って論述した方がよいです。

読んでいて色々書きすぎのような印象を受けます。設問イ、ウにおいて、全部まとめることができるのか、心配です。

合格条件充足度評価表

合格条件		評価			得点							
本	内容的側面	システム・プロジェクトの概要・特徴	システム・プロジェクトの概要・特徴が簡潔かつ具体的に記述されている。	10	8	5	2	0	簡潔・具体的でない。	$\frac{5}{10}$	①	
		出題意図に配慮する	出題意図をくみ取り、これについて論じている。	10	8	5	2	0	出題テーマとずれている。	$\frac{5}{10}$	②	
		システムアーキテクトとしての創意工夫、行動力	システムアーキテクトの業務にふさわしい工夫、行動について述べている。	10	8	5	2	0	システムアーキテクトの業務行動になっていない。	$\frac{5}{10}$	③	
		工夫や対策の評価と課題の認識	結果の評価と今後の課題についての認識がしっかり表現されている。	10	8	5	2	0	しっかり評価していない。	$\frac{5}{10}$	④	
文	表現方法の側面	明白さ	論旨の一貫性	冒頭の 800 字が主題の伏線になっていて、かつ本文において全体の論旨をしっかりと展開している。	10	8	5	2	0	論旨を一貫してしっかりと展開していない。	$\frac{5}{10}$	⑤
			主張性	一つ、二つに絞り込み、掘り下げて論述している。	10	8	5	2	0	掘り下げ不足である。	$\frac{5}{10}$	⑥
		分かりやすさ	具体性	工夫内容を具体的に説明している。	10	8	5	2	0	表面的な説明である。	$\frac{8}{10}$	⑦
			客観性	解決策の採用理由を事実（環境条件）に基づいて説明している。	10	8	5	2	0	理由が述べられていない。	$\frac{8}{10}$	⑧
文章	一般性	一般的な、かつ、分かりやすい表現をしている。	10	8	5	2	0	表現が分かりにくい。	$\frac{5}{10}$	⑨		
	読みやすさ	章・節・項・段落分けは適切で、誤字脱字がなく、正しい日本語が使われている。	10	8	5	2	0	正しい日本語になっていない。	$\frac{5}{10}$	⑩		
総評		<p>設問アは 700 字をオーバーしてしまいました。設問イにおいて工夫、能力アピールの展開を盛り込もうとしている点がすばらしい！です。設問ウでは合格を決めるポイントでしっかりとアピールしてほしかったです。</p>								合計得点 (100 点満点)	56 点	



本書掲載問題一覧

(1) 第2部 掲載問題一覧

章	問番号	出典	タイトル	解答	学習済	要見直し
2章	問1	H28秋本試験午前II問11	エラー埋込み法における残存エラー数の推定	イ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	コラム1	H22秋本試験午前II問9	実験計画法の直交表を用いたテストケース	エ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	コラム2	H27秋本試験午前II問10	実験計画法のテストケース	ウ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	コラム3	H26秋本試験午前II問9	直交表によるテストケース作成のテスト回数	エ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問2	H26秋本試験午前II問5	機能的強度のモジュール	ウ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問3	H24秋本試験午前II問8	プログラムテスト仕様書の作成手順	ア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問4	H28秋本試験午前II問12	分散システムの保守	ウ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問5	H23秋本試験午前II問5	モジュール結合度の最も弱い情報の受渡し方法	ウ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問6	H19秋本試験午前問25	システム移行テストの目的	ア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問7	H24秋本試験午前II問11改題	共通フレーム2013	イ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
3章	問8	H27秋本試験午前II問11	共通フレームにおけるシステム適格性確認テスト	エ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問9	H28秋本試験午前II問17	機能情報関連図の説明	エ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問10	H21秋本試験午前II問10	特許権の取得が可能なもの	イ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問1	H22秋本試験午前II問17	UMLの活用シーン	ウ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問2	SA重点オリジナル問題	ある一つのクラスあるいはオブジェクトに注目して作成する図	エ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問3	H27秋本試験午前II問3	オブジェクト指向分析における分析モデルの境界オブジェクト	イ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問4	SA重点オリジナル問題	多重度とクラス図	ア	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問5	SA重点オリジナル問題	多重度とクラス図	イ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問6	SA重点オリジナル問題	多重度とクラス図	エ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問7	SA重点オリジナル問題	クラス図へのクラス追加	イ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問8	H26秋本試験午前II問21	階層構造をもつUMLのクラス図	エ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問9	H23秋本試験午前II問1	クラスにおける公開可視性	イ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	問10	SA重点オリジナル問題	シーケンス図	ウ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
問11	SA重点オリジナル問題	シーケンス図の活性区間	ウ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
問12	SA重点オリジナル問題	シーケンス図の呼出し	イ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
問13	SA重点オリジナル問題	コミュニケーション図	イ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	